

# 輝くひと

## 世界を舞台に!!

### ドローンレーサー 犬飼彩咲さん

生活の中で、ドローンは身近な存在になりました。農業散布、災害調査、報道現場や趣味での空撮など。その中にドローンレースという分野があります。現在、プロのドローンレーサーとして活躍中の犬飼彩咲さんにお話を伺いました。



犬飼彩咲さん

●ドローンを始めたきっかけは何ですか？

きっかけは5年生の時、父が買ってくれたおもちゃのドローンでした。父もドローンレーサーなので、小学生の

頃からレースを観戦し、影響を受けてきました。

●競技内容について

重さ約500グラム程度のドローン

●自分らしく活躍するために

自分の得意なSNSを通じ、たくさんの人たちとコミュニケーションを取りたいと思っています。海外のレースにも参加しており、ワールドカップに出た時に、子どもに「コップンカー」とずっと話しかけられたのですが、意味が全然わかりませんでした。タイ語で「ありがとう」という意味でした！このような体験もあり、英語だけでなく、中国語、韓国語も勉強しています。

●これからの目標は

日本代表になってW杯や世界大会に出場し、活躍することが目標です！今年は、昨年出場できなかったサウジアラビアの招待レースやヨーロッパなどさまざまな国で行われるレースにも参加する予定です。

●ドローンをやってみたい人へ・・・

操作が難しく大変なところもありますが、頑張れば頑張った分、結果が出る喜びがあります。ドローンレースに興味を持ってくださった方、まずは



レースを観戦してみませんか！



ドローンは年齢や性別に関係なく誰でも飛ばすことができます

現在、プロのドローンレースチームSNW代表を務めるお父さんの犬飼豊紀さん。もともとは電気の仕事をしていて、仕事でドローンが使えないかと始めたのがきっかけだそうです。

「チーム名の由来は、土曜日の夜に練習しようということでサタデーナイトウーパーズ(SNW)。ウーパーズには「ドローンを楽しむ人」という意味があります。弟と二人で平成29年にス

に搭載されているカメラの映像を、専用のFPVゴーグルで受信し、決められたルートをできるだけ速く飛ばします。コースには旗やゲートが設置されていて、時速200キロメートルくらいのスピードでそれをくぐりながら飛行するのですが、ゴーグルをつけることで自分がドローンに乗っているような感覚があります！

※FPVゴーグル：操縦者がドローンからの視点で操縦する方式



FPVゴーグルを装着した彩咲さん

●レース人口について

日本のドローンレース人口は1000人から2000人といわれており、日本のクラシカルなレースリーグであるジャパンドローンリーグに登録されている選手は300人程度とされています。そのうち女性はまだ1割程度です。

※ジャパンドローンリーグ 年間全7戦(4月〜10月)。令和7年開幕戦は鹿嶋市で開催されました

ターゲットしました。

今は100パーセント、ドローンが仕事です。人が入れないような危ないところ、例えば陥没事故現場の撮影や、石油プラント工場の検査をしています。

これらの撮影には高度な操縦技術が必要で、パイロットを育成する活動もしています。おもちゃのドローン(100グラム以内)は、Wi-Fiの電波を使っているので免許は要らないのですが、映像を電波で飛ばして操作するには、アマチュア無線4級という国家資格が必要です。

自分たちのチームは強い選手だけを集めている訳ではなく、育成していることが特色です。メンバーは8歳から70歳と幅広く、指と目の動きだけで戦えます。

例えば左手が不自由で、右手で操作してレースに出ている方もいらっしゃいます。ほかにはゲームばかりで不登校だった子どもが、ドローンをきっかけにコミュニケーションがとれて、学



犬飼豊紀さん

●苦労したことは？

日本トップ15人の最上位のプロクラスに入るため、シーズン中は遊びに行くことなく、休みのほとんどを練習に費やしました。

それでも本番当日にすごく緊張してしまい、練習の成果をなかなか出しきれませんでした。

●嬉しかったことは？

レースの時に、自分より年上の男性から「彩咲ちゃんみたいに速く飛ばせるように頑張りたいです」って言われたことです。

●彩咲さんへ質問！

Qドローンの飛行映像を見ると、酔った感じになるのですが、彩咲さんはそういう感覚はありましたか？  
A最初は全然酔いませんでした。最近自分とは違う、癖のある飛ばし方をしている選手のフライトを見ると、酔ったかも感じる時があります。自分で操縦している時は酔いません。

乗り物酔いと同じで、機体の動きと自分の体の動きが一致しない場合、酔いやすくなるそうです。

校に行けるようになったケースもあります。

年齢や性別に関係なく、同じレースに参加して競うことができます。トップ選手に勝つというのは、ほかの競技では難しいですが、ドローンでは叶います。」

ドローン大国として注目されている国は、トルコ、中国、アメリカ、イスラエル、インドなど。



今年の春に高校を卒業された彩咲さん。その翌月4月14日に、念願だった日本トップ15の最上位のプロクラスに入るといふ目標を達成しました！お父さんの豊紀さんや叔父さんとはライバル関係になるそうで、今後の活躍が楽しみです。

これからもドローンパイロット彩咲さんを応援しています。